

長期間の高温に対する農作物等の技術対策

【畜産】

1 高温の影響

家畜は、暑熱ストレスにより飼料摂取量が大きく減少するため、乳量減少、乳成分率の低下、増体量の減少、産卵率の低下および受胎率の低下等が発生する。

2 対策

- (1) 体温の上昇を防止するため、屋根散水、細霧、送風、寒冷紗設置等の遮光による畜舎内の温度の低下を図る。屋根散水や細霧を行う場合は、畜舎内の湿度上昇に注意する。
- (2) 大家畜に対しては、消化性が良く第一胃内での発酵熱の発生が少ない良質粗飼料の給与、給与回数の増加、粗飼料の切断長の短縮等が効果的である。
- (3) 飼料は、涼しい時間帯（早朝又は夜間）に給与し、新鮮な水を常時、十分な量を飲めるようにする。
- (4) 給与飼料中の蛋白質が過度にならないようにし、発汗等によりミネラル不足も懸念されることから鉱塩は切らさずに、ビタミンは通常期より増給する。
- (5) 高温や多湿は、飼料の変敗が懸念されることから、湿気の少ない冷暗所でなるべく保管し、カビが確認できたエサは給与しない。カビが見えない場合でもカビ毒吸着材等を活用する。
- (6) 食べ残した飼料は飼槽内で変敗しやすく、臭気やハエ等の衛生害虫の発生源となるため、なるべく早く片付け、飼槽を清潔に保つ。
- (7) 熱中症が疑われる場合は、牛体に直接散水し、換気扇の風をしっかりと当てる。散水の際は、頸部にあてると効果的である。